

主 論 文 要 旨

報告番号	㊦ 乙 第	号	氏 名	木村 富也
主 論 文 題 名： 多視点で見える化した乗用車用更生タイヤ導入のための事業性分析				
(内容の要旨) 企業では、解決が難しい課題があり、その課題に対して多くのお金とリソースをかけている。一つの課題が解決しても、次の課題が発生し、課題解決はいつになっても終わらない状況にある。先行研究では、それら課題を細分化して解決しており、各々の課題は解決している。しかしながら、それを俯瞰して見た場合には解決しているか否かに関しては定かではない。課題を細かく解決することは、その部分は解決するが、必ずしも全体が解決していないという問題がある。 そこで、本論文は、多視点で見える化したシステム思考を、ありたい姿とのギャップ（現在）、現状からの改善（次のステップ）、未来予測（将来）の3つの領域について検証をして、その可能性について検討することを目的とし、この3つの領域をそれぞれ検証した3つの研究から構成されている。 具体的には、タイヤ生産業界を事例とし、業務プロセス価値連鎖図による多視点見える化を、①「ありたい姿とのギャップ（現在）」として新興国の労働集約型タイヤ生産工場の現状把握、②「現場からの改善（次のステップ）」としてタイヤ製品間接コストの管理と改善、そして③「未来の予測（将来）」として乗用車用更生タイヤ導入可能性の事業性分析の3つの領域に適用した検証を行ない、それぞれの領域にて業務プロセス価値連鎖図の効果を明らかにした。これにより業務プロセス価値連鎖図は、現状の把握、改善、未来予測のいずれにも効果があることを示すことができた。 このように、業務プロセス価値連鎖図を活用し、事業所や部門を横断した多視点で俯瞰することを通して、会社全体としての価値を生む課題解決がなし得ることを、実証及びシミュレーションによって検証した。 キーワード：タイヤ生産、見える化、サプライチェーン、新興国、製品間接コスト、サステナビリティ、ライフサイクルアセスメント				